



HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究

課題番号：：H 30 -エイズ-指定- 004

研究代表者： 白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター
エイズ先端医療研究部長）

研究分担者： 鯉渕 智彦（東京大学医科学研究所感染免疫内科 講師）
久慈 直昭（東京医科大学産科婦人科 教授）
山内 哲也（社会福祉法人武蔵野会障害者支援施設リアン文京 施設長）
安尾 有加（国立病院機構神戸医療センター看護部 看護師長）
佐保美奈子（大阪府立大学大学院看護学研究科 准教授）
武田 丈（関西学院大学人間福祉学部 教授）
江口有一郎（佐賀大学医学部肝疾患医療支援学講座 寄附講座教授）
大北 全俊（東北大学大学院医学系研究科 講師）

研究要旨

HIV 感染症は治療の進歩によって慢性疾患となったが、多くの課題が残されている。本研究ではこれまでの先行研究の成果および平成 30 年 1 月 18 日付けで改正された後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針を踏まえ、HIV 感染症および合併症で未解決の課題を明らかにし対策を示すことを目的とする。いずれの研究も現在、未解決かつ重要な課題を含んでおり、それを明確化し対策を示す研究の必要性は高い。研究課題によって用いる研究手法の中には海外で開発されたものもあるが、国内で HIV 感染症の領域に用いられた事は無く独創的である。複数の施設での調査研究等においては患者の個人情報の取り扱いには十分留意をすると共に、新たな「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守する。当研究班は 6 つの柱、すなわち柱 1 HIV 感染症の抗 HIV 治療ガイドライン改訂、柱 2 HIV 感染者の生殖医療研究、柱 3 HIV 感染者の長期療養の課題に関する研究、柱 4 効果的な啓発手法の開発研究、柱 5 HIV 医療における倫理的課題に関する研究、柱 6 HIV 診療支援ツールの設計に関する研究を実施した。柱 1 では米国等のガイドラインを参照し国内外の臨床研究の成果および国内での抗 HIV 薬の承認状況を鑑みて今年度も改訂した。柱 2 では主に HIV 感染夫と HIV 非感染妻の間での体外受精を用いる生殖医療の実施上で受精機能の高い精子の分離技術や精液中のウイルス量検定法の改良などの研究を進めた。柱 3 では福祉施設、エイズ診療の拠点病院の立場から HIV 陽性者の長期療養につき研究を継続し、看護師等への教育研修方法につき検討した。柱 4 ではソーシャルマーケティング手法を用いて啓発手法の開発と効果測定システムの確立を目指した。柱 5 ではデータベースおよび関連文献（ジャーナル掲載の論文及びガイドラインなど）、特に海外で話題となっている「U=U」についても調査を進めた。柱 6 では、先行研究の情報を収集し、HIV 診療支援ツールの設計につき検討した。いずれも分担研究間相互に連携し研究を実施した。

研究目的

平成 30 年度の後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の改正およびこれまでの先行研究の成果を踏まえ、本研究では HIV 感染症およびその合併症で未解決の課題を明らかにし、その対策を検討することを目的とする。

研究方法

研究目的の達成のために次の研究を行った。

柱 1 「抗 HIV 療法のガイドラインに関する研究（鯉渕）」ではガイドライン改訂委員の協力を得つつ、国内外の学会や論文などから最新の抗 HIV 治療の情報を収集し、前年度版のガイドラインを改訂した。
柱 2 「HIV 陽性者の生殖医療に関する研究（久慈）」では、1) 洗浄精液による不妊治療（顕微授精法）を

継続し、2) 精液中のウイルス量検定法の改良 (PCR 反応を阻害する多量のヒト精子 DNA の存在下で効率的に CD4 陽性細胞中の HIV 遺伝子 (特に DNA) を検出する方法) を検討した。柱3 「長期療養課題に関する研究」 1) 「福祉施設における HIV 陽性者の受け入れ課題と対策 (山内)」では、①社会福祉施設従事者対象の HIV/AIDS 研修マニュアルの改訂と関係各所への配布、②社会福祉従事者対象 HIV/AIDS 研修の開催、事後アンケートから受入れ支援策の検討、③東京都内の高齢者施設への量的調査を行った。2) 「エイズ診療拠点病院と在宅あるいは福祉施設の連携に関する研究 (安尾)」では、訪問看護師対象の研修会および長期療養型病床所有施設と保健師対象研修を実施した。後者の研修会ではプログラムに HIV 感染症のみならず、B 型肝炎やノロウイルス、経路別感染対策に関する講義も企画した。3) 「介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における拡大戦略の研究 (佐保)」では、① (公社) 大阪府看護協会と連携の下、看護職、看護学生・養護教諭課程学生を対象に HIV サポートリーダー養成研修を実施した (年2回、各2日間)。②介護職対象の研修を介護保険施設へ出前講義を実施した (5施設程度)。③高等学校への出前講義 (一斉15校程度、クラス単位2~3校) を実施した。4) 「HIV 陽性者の地方コミュニティでの受け入れに関する研究 (武田)」では、①陽性者の生活支援や心身健康維持のための社会資源に関するフォーカスグループ調査、②エイズ拠点病院と連携する地域一般診療所医師へのインタビュー調査、③特別養護老人ホーム看護師対象の陽性者受け入れでの懸念に関するアンケート実施、④公的介護サービスではカバーできない支援を行う人材養成研修の実施、⑤陽性者支援のための NPO 法人「伴走型支援」モデルを検討した。柱4 「効果的啓発手法の開発に関する研究」 1) 「効果的啓発手法の開発と評価に関する研究」では大阪での MSM を含む一般男性を対象とした啓発手法の開発と、その効果の評価方法を検討した。①過去実施の世論調査、インターネットによる大規模調査等の内容を精査し、意識調査項目の検討を行い、調査を実施した。②地域におけるマルチセクター連携による啓発活動「大阪エイズウィークス 2018」を主導した。③大阪地域の FM ラジオでの啓発を継続し、効果の評価方法の検討を行った。2) 「ソーシャルマーケティング手法を用いた HIV 感染ハイリスク群に対する啓

発法の開発 (江口)」では、インターネットマーケティングで全国的に定評あるグリー・アドバタイジング (株) と協力し、①これまで効果的であると確認されたバナーを用い検証を開始した。② Twitter を用い SNS 情報発信を大阪エイズウィークスに併せて実施し、情報発信効果や SNS の特徴である拡散効果の測定を行った。柱5 「HIV 感染症における倫理的課題に関する研究 (大北)」ではデータベースおよび関連文献 (ジャーナル掲載の論文及びガイドラインなど) の調査等を行った。柱6 「HIV 診療支援ツールの設計に関する研究」では先行研究 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構エイズ対策実用化研究事業「服薬アドヒアランス向上に関する研究」) にて特許出願 (特願 2017-020927) した「服薬支援管理システム」の設計をベースに、(一社) 保健医療情報システム工業会 (JAHIS) 会員企業提供の調剤システムと連携して稼動する併用注意薬や重複投与を自動的チェックできるシステムを設計する。研究全体は白阪が統括した。(倫理面への配慮) 調査研究等においては患者の個人情報の取り扱いには十分留意をし、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守した。

研究結果

柱1 (鯉淵) ①平成30年6月に新薬の承認に伴い前年度版ガイドラインの初回治療推奨薬を臨時改訂した。②ガイドライン閲覧の利便性を高めるため、研究班 HP 上にスマートフォン対応型のガイドラインを公開した。柱2 (久慈) ①平成30年は精液洗浄を23人で実施し、顕微授精は採卵95件、胚移植78件で妊娠率は21.8% (17/78) であった。②リンパ球からの選択的 HIV 核酸抽出の条件と抽出の効率、および血液型特異的 real-timePCR 系構築を検討した。柱3 (山内) ① HIV/AIDS の受入れマニュアルを改訂し、改訂版「知ることから始めよう」を発行した。②研修会を実施した。(安尾) ①長期療養型病床所有施設や保健師対象研修会は大阪で開催 (12月8日、参加者26名) した。保健師が最多で、長期療養型病床所有施設看護師が次いだ。31%が研修受講歴があり、31%が HIV 陽性者受け入れ経験があった。研修会終了時アンケートでは受け入れ意識の変化が62%、以前から支援したいと考えており、変化していないとが19%であった。「変化していない、もしくは以前から支援は困難と考えており変化していない」は0%であった。今後の HIV 陽性者の受け

入れについては、「受け入れ可能」が38%、「準備が整えば可能」が58%であったが、「受け入れ不可能」が4%あった。また「研修会の開催を今後も希望」が92%であった。②冊子「在宅医療を支えるみんなに知ってほしいこと」の改定作業を進めた。（佐保）HIV サポートリーダー養成研修には臨床看護職・看護学生・養護教諭課程学生が参加し、HIV の最新知識と初期対応、高等学校出前講義の概要について体験的に学ぶことができた。修了生のモチベーションは高く、出前講義の見学者と講義担当経験者が増加してきた。（武田）① HIV 陽性者を受け入れている介護保険等のサービス提供事業者は、「難病患者と同様な課題」があると認識していることがわかった。②高齢者施設の主な敬遠理由は、「医療処置の必要性が高い」、「施設内の医療者では対応できない」、「家族がいらない」などが複数ある事例であった。③エイズ拠点病院と地域の診療所との連携については、診療所が普段の健康維持や日常的検査を実施し、拠点病院を支援する体制を築くことにより、患者が利用しやすい医療システムが構築できると考えられた。柱4（白阪）1）検討した調査項目を用い、大阪地域で約5千人を対象にインターネット調査を平成31年1月中旬に実施した。マルチセクター連携による啓発活動としての世界エイズデー・キャンペーン「大阪エイズウィークス 2018」を主導した。2）大阪のFM ラジオで毎週30分レギュラー番組 HIV/AIDS 啓発プロジェクト「LOVE+RED」を放送し、各イベント等でエイズ意識調査を実施した。HP アクセス数は約5,000～6,000/月を獲得した。（江口）本研究班運営のTwitter サイトを開設し、平成30年11月11日から平成30年12月21日現在で合計27のコンテンツを発信し、先行研究で効果が確認されたバナー発信をTwitterで併せて行なった。当該バナーのインプレッション数（バナーがTwitterのメッセージに表示された回数）は5,067,014件で、そのフォロワー数は1,665人であった。そのフォロワーは当該バナーに関心がある対象者である可能性が推定された。またそのうち、HIV 検査に関する方法等のより詳しい情報のリンクのクリック累計は21,704件であった。柱5（大北）HIV/AIDS に関する倫理的議論の調査については、海外で昨年度くらいから話題となっている新たなテーマである「U=U（Undetectable = Untransmittable）に関する調査を国際学会での情報収集、文献調査、HIV/AIDS 医療お

よび対策に従事する関係者を集めた研究会の開催等で議論を行い、その理論的根拠および倫理的意義について一定の知見を得た。柱6（幸田/白阪）平成30年度は、併用注意薬や重複投与のチェックを行うための基礎データとしてJAHISの所有する「相互作用データ（評価用サンプル）」を入手し分析と評価とデータベース化するためのデータ設計に取り組み、データ活用のための専用アプリケーション（HIV 診療支援ツール）の機能を検討した。

考察

これまでの調査結果の分析や課題の抽出に取り組んだ。ガイドライン、マニュアル、ハンドブック等や支援ツールの評価を行い、必要な改訂を行った。啓発の研究から一定の効果のある手法の開発の手がかりを得た。各研究から重要な結果を得たと考える。

自己評価

1) 達成度について

計画を概ね実施でき目的を達成できた。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本研究はHIV感染症の治療等で課題を明らかにし、その対策につき検討を行うものであり、必要性は高い。いずれも学術的意義も高く、国際的にも新規性が高い。治療のガイドライン改訂など、社会的意義も大きいと考える。

3) 今後の展望について

研究結果を踏まえさらに研究を深める。

結論

HIV 感染症の治療と関連分野で課題を抽出し、ほぼ計画通りに研究を実施できた。

知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

服薬支援管理システム：先行研究（国立研究開発法人日本医療研究開発機構エイズ対策実用化研究事業「服薬アドヒランス向上に関する研究」）にて特許出願（特願 2017-020927）した。

研究発表

研究代表者

白阪琢磨

・ Koizumi Y, Imadome KI, Ota Y, Minamiguchi H, Kodama Y, Watanabe D, Mikamo H, Uehira T,

Okada S, Shirasaka T : Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. 「J Clin Immunol.」 38(4):478-483、2018 May

・ Watanabe D, Uehira T, Suzuki S, Matsumoto E, Ueji T, Hirota K, Minami R, Takahama S, Hayashi K, Sawamura M, Yamamoto M, Shirasaka T : Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study. 「BMC Infect Dis.」 19(1):11、2019 Jan 5

・ Tanaka S, Kishi T, Ishihara A, Watanabe D, Uehira T, Ishida H, Shirasaka T, Mita E : Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018. 「Hepatology Research」 Epub ahead of print 2019 Jan 17

・ 白阪琢磨 : Hand in Hand ~ HIV 治療と精神科の連携 ~ No.20 『急がれるエイズ治療拠点病院と地域の精神科との連携』 「コリウス」 Vol.20、2018 年 4 月 20 日

・ 白阪琢磨 : 逆転写酵素阻害薬 HIV-1 reverse transcriptase inhibitors 「医学のあゆみ」 265(7) P.557-561、2018 年 5 月 19 日発行

・ 白阪琢磨 : ガイドライン改訂の Points 『DHHS ガイドライン改訂のポイント』 「HIV 感染症と AIDS の治療 2018 年 5 月号」 9(1) P.11-19、2018 年 5 月

・ 白阪琢磨 : topics 「エイズ診療」 について 「皮膚病診療 2018 年 10 月号」 40(10)P.974-982、株式会社協和企画、2018 年 10 月

・ 白阪琢磨 : HIV 感染防ぐのにゲノム編集は必要? 専門家に聞く 「朝日新聞デジタル」、2018 年 12 月 7 日

・ 白阪琢磨 : HIV 治療薬『より相互作用の少ない薬剤開発を』 「日刊薬業 (web/ 紙面)」、2018 年 12 月 7 日

・ Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Tomishima K, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T: Association of tenofovir level and discontinuation due to impaired renal function. HIV Drug Therapy Glasgow 2018, Glasgow, 2018 年 10 月 29 日

・ 白 阪 琢 磨 : Hemodialysis of people with HIV infection. 第 63 回日本透析医学会学術集会・総会、神戸、2018 年 6 月 29 日

・ 白阪琢磨 : HIV 感染症の診断と治療 - HIV 感染症の治癒は可能か?。日本臨床検査自動化学会第 50 回大会、神戸、2018 年 10 月 13 日

・ 白阪琢磨 : てんかんと服薬アドヒアランス 他領域に学ぶ服薬アドヒアランス 「HIV 患者における現状と問題点。第 52 回日本てんかん学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 27 日

・ 白阪琢磨 : 性感染症の課題 - HIV 感染症と梅毒 -。日本性感染症学会第 31 回学術大会、東京、2018 年 11 月 25 日

・ 東 政美、中濱智子、下司有加、武部美紀、伊藤文代、白阪琢磨 : 生活習慣病を併発している HIV 陽性者の生活習慣の改善に対する意識変化。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

・ 水木薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨 : HIV 陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

・ 加藤賢嗣、吉原雄二郎、渡邊 大、福本真司、和田恵子、安尾利彦、白阪琢磨、村井俊哉 : HIV 関連神経認知障害 (HAND) と脳構造。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・ 上地隆史、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨 : 細胞性免疫能が低下した HIV-1 感染者における LDH と β -D グルカンのニューモシスチス肺炎の診断能評価。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・ 来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、下司有加、松岡恭子、東 政美、中濱智子、上平朝子、白阪琢磨 : 自発検査で判明した新規 HIV 感染者の受検動機。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・ 渡邊 大、上平朝子、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨 : TDF から TAF に変更後の腎機能検査値の推移に対する併用キードラッグの影響に関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・ 上平朝子、渡邊 大、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨 : 当院の 2 剤レジメンの現状。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・ 矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、上平朝子、白阪琢磨 :

新規抗癌薬に変更を行うことで抗 HIV 薬との相互作用が回避できた 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ラルテグラビル／エトラビリン／ダルナビル／リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・寺前晃介、北島平太、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ST 合剤で薬疹、ペンタミジンでアナフィラキシー様症状を起こした難治性ニューモシスチス肺炎の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

・中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：当院における抗 HIV 療法施行患者のポリファーマシーに関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 4 日

・渡邊 大、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法中の HIV 感染者における細胞内 HIV-1-DNA 量の測定法間の差異に関する検討。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

・白阪琢磨：明日へのことば「エイズ治療最前線の 30 年」。NHK 関西発ラジオ深夜便、NHK ラジオ第 1、2018 年 6 月 9 日（2017 年 11 月 11 日再放送）

研究分担者

鯉渕智彦

1) Yanagisawa N, Muramatsu T, Koibuchi T, Inui A, Ainoda Y, Naito T, Nitta K, Ajisawa A, Fukutake K, Iwamoto A, Ando M. Prevalence of Chronic Kidney Disease and Poor Diagnostic Accuracy of Dipstick Proteinuria in Human Immunodeficiency Virus-Infected Individuals: A Multicenter Study in Japan. Open Forum Infect Dis. 5;5(10). 2018

2) Hirose J, Takedani H, Nojima M, Koibuchi T. Risk factors for postoperative complications of orthopedic surgery in patients with hemophilia: Second report. J Orthop. 15(2):558-562. 2018

3) 安達英輔、林阿英、佐藤秀憲、古賀道子、鯉渕智彦、堤武也、四柳宏：放射線療法により治癒したエイズ関連原発性中枢神経リンパ腫症例。第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、2018 年 10 月、東京

4) 林阿英、古賀道子、菊地正、佐藤秀憲、安達英輔、鯉渕智彦、堤武也、四柳宏：急性 A 型肝炎に罹患した HIV 感染者の臨床的特徴。第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、2018 年 10 月、東京

5) 立川愛、細谷香、関真秀、堀内映実、佐藤秀憲、古賀道子、鯉渕智彦、四柳宏、吉村幸浩、立川夏夫、鈴木穰、俣野哲朗：HIV 感染におけるメモリー CD4+T 細胞のメチローム解析。第 32 回日本エイズ学会学術集会、2018 年 12 月、大阪

6) 桧垣朱友子、城戸康年、安達英輔、松本昂、岩崎もにか、松原康朗、大田泰徳、佐藤秀憲、菊地正、古賀道子、鯉渕智彦、堤武也、四柳宏、山岡吉生：HIV 感染者におけるヘリコバクターピロリと胃マイクロビオームの相互作用。第 32 回日本エイズ学会学術集会、2018 年 12 月、大阪

7) 石坂彩、古賀道子、佐藤秀憲、菊地正、安達英輔、鯉渕智彦、四柳宏、清野宏、立川愛、水谷壮利：Short transcript を指標とした残存感染細胞の性状解析。第 32 回日本エイズ学会学術集会、2018 年 12 月、大阪

8) 鯉渕智彦：2 剤併用療法概論。第 32 回日本エイズ学会学術集会、2018 年 12 月、大阪

9) 鯉渕智彦：HIV 感染症の現状とこれからの課題。第 32 回日本エイズ学会学術集会、2018 年 12 月、大阪

久慈直昭

1) 山中 紋奈（東京医科大学 産科婦人科）、北水 真理子、上野 啓子、長谷川 朋也、小島 淳哉、伊東 宏絵、○久慈 直昭、西 洋孝：HIV 陽性精液からのリンパ球分離に関する基礎的検討（2018.9.6-7 旭川市民文化会館）

山内哲也

1) 山内哲也：社会福祉施設におけるマネジメント「HIV/AIDS ソーシャルワーク 実践と理論への展望」小西加保留 P228-241、中央法規出版、2017 年 11 月 24 日

安尾有加

1) 東 政美、中濱智子、下司有加、武部美紀、伊藤文代、白阪琢磨：生活習慣病を併発している HIV 陽性者の生活習慣の改善に対する意識変化。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、2018 年 12 月、大阪

佐保美奈子

1) 井田真由美、佐保美奈子、西口初枝、泉柚岐、豊島裕子、白阪琢磨：介護保険施設における感染症予防研修全職員への出前研修 実践報告。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月、大阪

武田 丈

1) 武田丈「関西学院大学におけるレインボーウィークを通じたソーシャルアクション」『Campus Health』55(2), 2018 刊行予定.

2) Takeda, Joe & Otero Yamanaka, Rosalie “Participatory action research as an approach for empowerment of self-help group: Facilitating social and economic reintegration of women migrant workers.” Kwansei Gakuin University Social Sciences Review, 22, 1-18, 2018.

江口有一郎

1) Oeda S, Takahashi H, Yoshida H, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Koshiyama Y, Ono M, Hyogo H, Kawaguchi T, Fujii H, Nishino K, Sumida Y, Tanaka S, Kawanaka M, Torimura T, Saibara T, Kawaguchi A, Nakajima A, Eguchi Y; Japan Study Group for NAFLD (JSG-NAFLD). Prevalence of pruritus in patients with chronic liver disease: a multicenter study. Hepatol Res. 2017 Sep 6. doi: 10.1111/hepr.12978. [Epub ahead of print]

大北全俊

1) 大北全俊：「患者主体の医療の系譜」と HIV 医療。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月、大阪